

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

生徒指導より

新学習指導要領の完全実施に向け、小学校だけでなく中学校、県立学校でも準備が進んでいると思います。学習指導要領の前文では「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができようようにすることが求められる」とあります。生徒指導提言にも同じような内容が記されています。このために学校はどのように教育を展開していけばよいのでしょうか？

西郷小学校は独自に学級活動(1)を研究されています。児童が自分たちに必要な議題を選び、司会グループが会の準備、進行を行い、児童同士で「合意形成」をしていきます。先月は一年生が先生の力をほとんど借りずに素晴らしい学級活動をしていました。「〇〇さんに賛成です。理由は……です。」「□□と△△は内容が似ているので合体させたら良いと思いますが、どうでしょうか？」という発言が驚くほどたくさんありました。先生は司会グループや、その他の児童の頑張りを褒めまです。子供たちはその時、とても嬉しそうな表情になりました。学習指導要領前文の内容にある、自分の良さ、友達の良い、話し合い活動の良さを感じているのだらうなと思えました。激しい変化のある社会だから、新しいことに挑戦することも大切ですね。しかし、日本が寺子屋の時代から今まで積み上げてきた教育を見直すことも大切だと思いまし

隠岐特別支援推進地域連携協議会

(文責 新谷)

二月四日に島前集合庁舎で第二回隠岐特別支援推進地域連携協議会を開催しました。この協議会は、今年度より文部科学省補助事業として実施している「切れ目ない支援体制整備充実事業」の一つとして行われている事業で、隠岐地区におけるすべての障がいのある幼児児童生徒に対し、教育・医療・保健・福祉・労働等の関係者で構成し、管内の特別支援教育における切れ目ない支援体制整備の充実を図ることを目的としています。本協議会は、島根県全体の連携協議会である「しまね特別支援連携協議会」に吸収される予定でしたが、隠岐の地域性や町村連携の必要性を訴え、これまでと同様に、今年度から三カ年間で引き続き継続されることになりました。会議では、各町村における

特別支援教育体制整備と本協議会の取り組み状況について報告がありました。特に、成果として挙げたことは、各町村の相談支援チームによる支援体制が整い、充実してきたことです。様々な相談に対応してすぐに対応し、関係機関と連携しながら話し合える状況ができるようになってきました。

課題としては、就学前の療育体制が十分ではなく、療育を受けられない状況にあることです。今後は、保護者や関係機関の要望に応える体制の整備が急務です。その他、本事業の相談会や研修会について報告しました。相談会については、周知されてきており、これからは、各町村の相談会と併せて相談事業の全体計画に位置づけられるよう実施していく必要があります。二年後には、本事業が終了となります。しかし、その後も隠岐地区では、協議会を継続し、情報共有や連携をさらに進めることが重要であるこ

公民館研究集会実践発表

(文責 奥谷)

二月二十二日に島根県公民館連絡協議会主催の公民館研究集会が、『学びと活動の循環』による地域づくりを担う人づくり」をテーマに開催されました。隠岐管内からは都万公民館が実践発表されました。都万公民館では小中学校と連携協働し、閉校した学校を活用し、小中学生が夏季キャンプ活動を行い、児童生徒が普段体験できない海洋体験を、地域の方々を巻き込みながら実施しています。そして、この機運を生かし、地域住民自らが様々な他者と協働しながら、地域課題の解決に粘り強く取り組んでいく人づくりを進めておられます。このふるさとキャンプを実施するにあたっての運営体制は次の組織(都万公民館、都万小中学校、中央公民館、都万支所、隠岐の島町教育委員

会、那久地区各区、地元漁業関係団体、隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会、環境省隠岐管理官事務所、隠岐支庁県民局地域振興課、隠岐教育事務所)からの参加による実行委員会制です。実に多様な組織とつながっています。実践発表を聞かれた参加者の多くが実行委員の充実ぶりに驚かれ、羨ましいとの声も聞かれました。実行委員会ではねらいの共有や活動内容の吟味がなされています。また、実施後には振り返りを行っていきます。この振り返りの中で地域側から「交流するのって大事だなあ。」とか、「普段から廃校を使うことができればなあ。」といった声が上がっています。ふるさとキャンプをきっかけに地域住民の意識に変化が見られ、地域活性化に向けた機運が徐々に高まりつつあることを感じることができました。今後この機運を大事にしながらか地域づくりを担う人づくりへの支援を行っていきたいと思います。(文責 吉山)